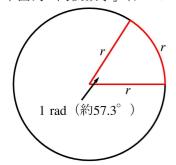
NO3 語句解説 一光源一

1. ある光源の平均球面光度が 200cd であった。この光源の全光束[lm]を求めよ。

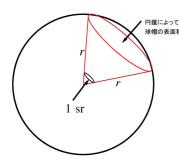
平面角「高校数学」(ラジアン)の定義。半径rの円で、円弧の長さがrとなる中心角を1rad(ラジアン)という。



円周をどれくらい切り取ったか

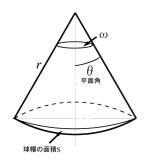
全円周は $2\pi r$ なので、全平面角は $\frac{2\pi r}{r} = 2\pi$ より、 $2\pi [rad]$ 。

立体角(ステラジアン)の定義。半径 r の球を円錐状に切り取ったとき、円錐の底の円によって切り取られた球面の面積が r^2 となる頂点の角(立体角)を 1sr (ステラジアン)という。



球の表面積をどれくらい切り取ったか

半径 r の球の表面積は $S=4\pi r^2$ 、球の体積は $V=4/3\pi r^3$ 球全体の立体角は

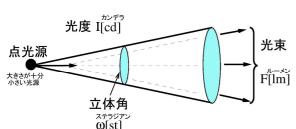


球帽を切り取る円錐の半径は $rsin\theta$ なので、その円周は $2rsin\theta$ 。

 $\Delta \theta$ 変化したときの円周の太さは $r\Delta \theta$ 。平面角が 0 から θ まで変化すると きの円周の和が球帽の面積 S なので

$$S(\theta) = \int_0^\theta 2\pi r \sin\theta \cdot r \, d\theta = 2\pi r^2 \left[-\cos\theta \right]_0^\theta = 2\pi r^2 (1 - \cos\theta)$$

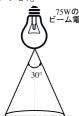
 $r = 1$ のときの立体角 ω と平面角 θ との関係式は
 $\omega = 2\pi (1 - \cos\theta)$



光源の光度 \mathbf{I} \mathbf{I} \mathbf{c} \mathbf{d}]は $I = \frac{F}{\omega}$ [cd]で表される。すなわち,光度はその方向の単位立体角(1sr)当たりの光束の量である。従って,光度 \mathbf{I} [cd]の点光源から, $\mathbf{\omega}$ [sr]内に放射される光束 \mathbf{F} [lm]は $\mathbf{F} = \omega I$ [lm]となる。

上式を用いて、全光束を求める。光源から全方向を見た立体角は $4\pi [{\rm sr}]$ なので $F=\omega I=4\pi \times 200\approx 2513 [lm]$

2. 図に示すハロゲンビーム電球がある。その配光は光柱の軸線に対して対称であって、ビーム光束は光柱の開き 30°の平面角内に投射されるものとする。ビーム電球の効率を 10lm/W とするし、光柱の平均光度[cd]の値を求めよ。



 \mathbf{E}^{JSWO} 光源の光度 $\mathbf{I}[\mathbf{c} \ \mathbf{d}]$ は $I = \frac{F}{\omega}$ [cd]で表される。効率を $^{1-g}$ で表すと

$$I = \frac{F}{\omega} = \frac{P \cdot \eta}{2\pi (1 - \cos \theta)} = \frac{75 \times 10}{2\pi (1 - 0.966)} = 3.51 \times 10^3 cd$$

3. 円形テーブルの中心点の直上に全光束 1500 lm で均等放射する電球を取り付けた。この円形テーブル面の平 均照度[lx]の値を求めよ。ただし、電球から円形ケーブル面までの距離に比べ電球の大きさは無視できるものと し、電球から円形テーブル面を見た立体角は0.74sr、円形テーブルの面積は $2m^2$ とする。

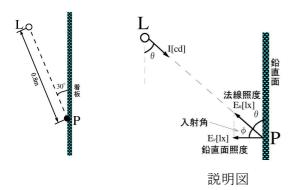
図に示す被照面の照度 $E[\overset{\iota_{1}}{1}x]$ は、次式で表される。すなわち、照度は、単位面積 $[1m^{2}]$ 当たりの入射光束の量[1m]である。

$$E = \frac{F}{S}[lx]$$

 $E = rac{F}{S}[lx]$ 従って、被照面 $\mathbf{S}[\mathbf{m}^2]$ の平均照度を $\mathbf{E}[\mathbf{lx}]$ とするの に必要な光束 $\mathbf{F}[\mathbf{lm}]$ は F = ES[lm] となる。

テーブルへ入射する光束は $F=1500 imes \frac{0.74}{4\pi}[lm]$ 平均照度 $E=\frac{\text{入射光束}\left[lm\right]}{\text{テーブル面積}\left[m^2\right]}=\frac{1500 \times 0.74}{2 \times 4\pi} \coloneqq 44.2[lx]$

4. 図のように、看板を照らす光源 L がある。看板上の点 P の照度を 200lx とするために必要な光源のLP方向の 光度[cd]の値を求めよ。ただし、点 P は光源 L を含み看板に直角な平面上にあるものとする。



鉛直面照度 Evを 200lx とするための光源のLP方向の光 度[cd]を求める問題である。法線照度 En は、点 P が半 径 l の球面上の点と考え、光度 I[cd]が法線照度に向か って投射されていると考える。

$$E_n = \frac{F}{S} = \frac{\omega I}{S} = \frac{($$
球の立体角) $\times I}{$ 球の表面積 $= \frac{4\pi I}{4\pi l^2} = \frac{I}{l^2}[lx]$

説明図を見ればわかるように、鉛直面照度 Ev は、壁面上の照度に対応するもので、入射角をØとすると

5. 次の式を変形せよ。

- (1) $\sin(\theta + 90^{\circ})$
- (2) $\cos(90^{\circ} \theta)$

(3) $\tan(\theta + 90^{\circ})$

- (4) $\sin(180^{\circ} \theta)$
- (5) $\cos(\theta + 180^{\circ})$
- (6) $\tan(180^{\circ} \theta)$

まじめにやるなら、加法定理 $\cos(\alpha+\beta)=\cos\alpha\cos\beta-\sin\alpha\sin\beta,\sin(\alpha+\beta)=\sin\alpha\cos\beta+\cos\alpha\sin\beta$ 。 (1) $t \in t \in \sin \theta \cos 90^\circ + \cos \theta \sin 90^\circ = \sin \theta \cdot 0 + \cos \theta \cdot 1 = \cos \theta$ 公式の暗記

90°に関係したもの

- $\sin \rightarrow \cos$
- $\cdot \cos \rightarrow \sin$
- tan \rightarrow 1/tan

- $(4) \sin 150^{\circ} > 0 \ \ \, \ \ \, \sin(180^{\circ} + \theta) = + \sin \theta$
- $(5)\cos 210^{\circ} < 0 \ \ \ \ \ \ \ \cos(\theta + 180^{\circ}) = -\cos\theta$
- $(6) \tan 150^{\circ} < 0 \ \sharp \ 0 \ \tan(180^{\circ} \theta) = -\tan \theta$

 $\tan(\alpha+\beta) = \frac{\sin(\alpha+\beta)}{\cos(\alpha+\beta)} = \frac{\sin\alpha\cos\beta + \cos\alpha\sin\beta}{\cos\alpha\cos\beta - \sin\alpha\sin\beta} = \frac{\tan\alpha + \tan\beta}{1 - \tan\alpha\tan\beta}$

180°に関係したもの

- $\sin \rightarrow \sin$
- $\cdot \cos \rightarrow \cos$
- $tan \rightarrow tan$

符号は後で決める。もとの式に $\theta = 30^\circ$ をぶち込んでみる。